



©parkERs from park corporation

## 07

### 奨励賞

## parkERs office

#### 受賞者

施主 株式会社パーク・コーポレーション parkERs  
 設計者  
 施工者

### 人の感覚を呼び起こす仕掛けのあるオフィス

「未来の公園を“体感”できるワークプレイス」をコンセプトに、空間デザインブランド parkERs（パークーズ）がデザインした自社オフィス空間。

機能的でインフォーマルな交流を生むインドアパーク、発散思考を促し自由な発想を生むアウトドアパーク、木立に包まれ集中へと導くフォレストパークの3タイプの公園でゾーニングし、心情や目的に合わせて環境を選べるようにした。

「花・緑・水・石・木・光」など公園の心地よい要素を用いて空間づくりを行なう独自のデザイン手法の中で、素材感や温もり、有機的な自然の形状に触れることで五感が刺激され創造力が高まることを意図して、東京都檜原村の間伐材をはじめとする国産材を活用し、新しいオフィスの木質化を図った。



### なぜ檜原村の木材を使うのか

オフィスの内装デザインには、東京都檜原村で採れた間伐材（スギ・ヒノキ・サワラ・ケヤキなど）を多数使用している。これは商品としての使用価値が低く、廃棄されてしまうような間伐材を使用し、新たな価値（家具としての機能や意味）を与えることを目的としたアップサイクルな取り組みである。また木材は譲渡ではなく購入することで、今後自社のオフィスをきっかけに他社のオフィス等でも導入の希望があった際には、これまで廃棄されていた木材に商品として価値をつけられるようなビジネスの仕組みも構築することを重要視した。

東京にオフィスを構える企業として、東京産の木材にこだわり、そしてその魅力を伝えることも、見た目だけのデザインではない、森林の行先を見据えたデザインとなっている。



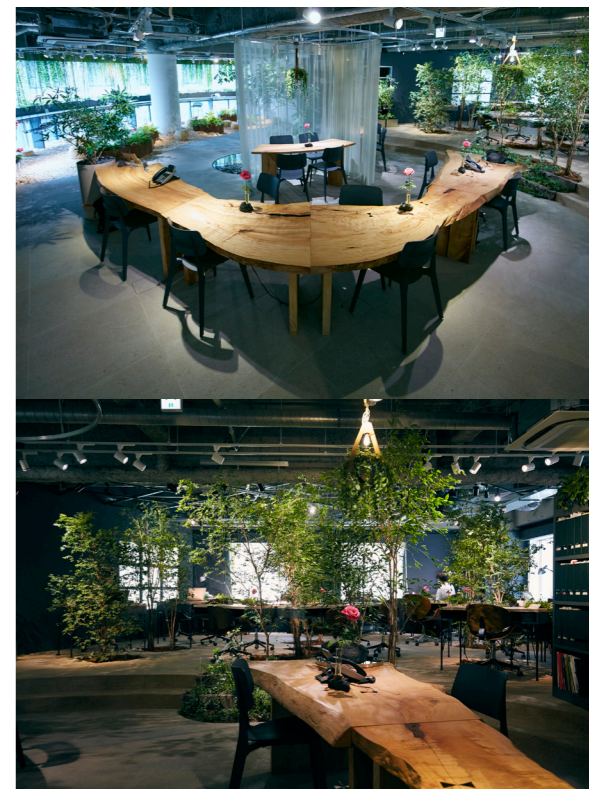
東京都檜原村で、間伐材を生み出す森を見学した様子▶

### 枝や樹皮まで使い切る内装デザイン



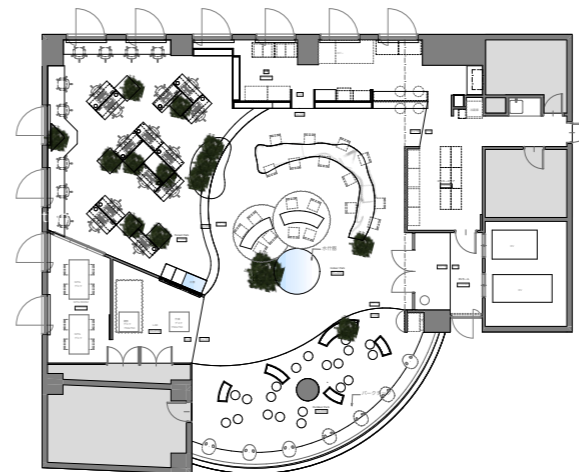
▲ ケヤキの枝を吊るした会議室 ▲ 赤杉の樹皮を用いたプランター

### 自然の形状を生かしたデザイン



▲ 素材の形そのままを生かしたトチノキの大テーブル

3.08 m<sup>2</sup>の多摩産材を使用したオフィスでは CO<sub>2</sub> 1.70t 分の炭素を固定していることが認められた。(みなとモデル二酸化炭素固定認証制度) 木材をオフィス内で活用することで炭素を一定期間固定させ、CO<sub>2</sub> を削減し、さらに多摩産の木材を使用することで地域の森林整備の促進に貢献している。



▲ トチノキの異なる表情を見せるミーティングテーブル



▲ 割れや生き物の跡もあえてそのままに

### 受賞概要・講評

港区に所在する、空間デザイン事業を展開する会社の自社オフィス。東京都檜原村産のスギ・ヒノキ・サワラをウッドチップやスツール、パーテーションへ活用している。木材以外にも植物や花、水等の自然物をオフィス内へふんだんに取り入れ、居心地のよい空間をデザインしている。

本作品については「木による癒しの空間として、今後必要とされる好事例である点」「木と自社との繋がりを分かりやすく表現している点」等が評価された。